

全国の海岸林、海岸域再生における貢献

田中 賢治

特定非営利活動法人 自然再生技術協会

この度は、日本海岸林学会賞（地域賞）を頂き、大変ありがとうございました。協会員一同、大変に光栄なことであり、今後の活動に対して励みとなる受賞となりました。

特定非営利活動法人自然再生技術協会は、東日本大震災以降において、今まで放置されてきた海岸林及び海岸域における飛砂防止機能等の多面的な効果が見直されるようになってきたことから、2013年（平成25年）9月に設立したものであり、2018年（平成30年）11月現在28社が参画しています。発足の経緯としては、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災による激甚な地震災害の発生から協会の設立までの期間において、多くの時間が経過したにも関わらず、復旧への道のりが半ばである現状を解決する一助となればとの思いから、資材メーカー、苗木生産者、建設コンサルタント等が集結したものです。

当協会は、日本の緑地環境から海岸域を含めた森林環境全般にわたる保全計画の指導・助言並びに公共緑地等の改善、復興、緑地計画等に係る理念、技術の熟成、普及を図る活動を行うことによって、人と自然との関わり方、地域における人と人との絆の継承に寄与し、未来を担う子供達へ、豊かな自然を残す活動を協会員が一致団結して展開することを目的としています。

日本では、企業の持つ目覚ましい技術開発や技術の進歩によって、安価で高機能な商品やサービスの提供を受けることができるようになり、人々の暮らしは豊かになってきました。一方で、人々の暮らしから「その土地ならではの」郷土色や「その時期・時節ならではの」季節感といった伝統的な生活文化が失われていく風潮にあります。日本各地で近年頻発している自然災害において復旧・復興に役立つ活動に加えて、協会の関係者と共に地域の伝統文化・風景を後世に残していきたいと考えています。

このような環境を実現する為には、自然の持つ環境の復元力を最大限に生かし、我が国の緑づくりの中で培ってきた高い技術を利活用するしかないと思います。当協会は、高い生物の多様性、地域性の豊かさ、優れた修景性を持ち、循環型経済の実現に寄与できる緑づくりの考え方を取り入れ、広く緑化に携わる人々の英知を集めて、この緑化を実現していく活動を行っています。

現在、東北の海岸林に向けた明確なビジョンを掲げ、従来の技術に加えて新しい設計や地域のマッチ

した緑化手法を積極的に取り入れながら、震災復旧に留まらない緑地デザイン、植栽技法、環境改善手法を駆使した自然復元に貢献しています。

具体的な活動については、海岸林及び海岸域に求められる社会的なニーズに対して、植物が生育する為に非常に過酷な自然環境である海岸林及び海岸域への木本類及び草本類の効率的な導入、生育の促進が必要と考え、協会の会員の英知を集めながら全国各地の海岸林及び海岸域の再生活動を継続的に行っています。

協会で実施してきた日本海岸林学会における発表については、2015年（平成27年）と2017年（平成29年）に協会で開発したボランティアが気軽に使用できる有機質系土壌改良材を利用した植栽の事例、配合量の検証について調査した結果を報告し、2016年（平成28年）に海岸域における飛砂防止を目的として有機質を主体とした植生基盤を封入したマットを砂地に埋設して地域性植物の生育を促進する砂丘地緑化の取り組みについて報告してきました。

海岸林の再生、沿岸域における緑化における活動については、北は岩手県の海岸林、南は沖縄の海岸域の再生と幅広く展開しており、協会のホームページ（<https://www.shizensaieigi-jutsu.org/>）で広く一般の方々に対して発信しています。

協会で取り組んでいる海岸林の再生を支援する活動については、宮城県の「みやぎの海岸林再生入門」、福島県の「ふくしまの海岸林再生に向けた手引」等の作成に関わっており、協会の指導によって島根県内の高校が行った沿岸域におけるハマボウフウを用いた緑化については、その活動が高く評価されました。日本海岸林学会賞（地域賞）を頂いた2018年（平成30年）の石垣大会においては、平成22年の年末から平成23年初めにかけての記録的な豪雪によって、倒木等の甚大な被害を受け、海岸林における防風効果を維持し難い状態となっていた鳥取県の弓ヶ浜海岸林の「弓ヶ浜白砂青松そだて隊」への参画によるクロマツを主体とした海岸林の保育活動について報告しています。

受賞を励みとして、今後とも協会員が一丸となって、全国における海岸林の再生、沿岸域における環境保全活動に貢献できるように尽力していこうと考えています。